

# 1 「危険予知活動(KYK)」について

## ○それってなに？

危険予知活動(K:キケン、Y:ヨチ、K:カツドウ)とは、「現場で作業を開始する前に、その作業に伴う危険に関する情報をお互いに出し合っ共有化し、危険のポイントと行動目標を定め、作業の要所要所で指差し呼称を行って安全を確認し合うもので、ヒューマンエラーによる事故を防止するために非常に有効な手段です。

具体的には、現場で実際に作業をさせたり、してみせたり、または作業の状況を描いたイラストシートなどを用いて、職場で危険要因を話し合い、これに対する対策を考え合っ決めて、一人ひとりが実践するもので、作業者の危険に対する感受性とともに、問題解決能力や実践への意欲を高める効果が期待できます。

リスクアセスメントとの関連で言えば、設備対策などによりリスク低減措置を講じてもなお残るリスク(残留リスク)や作業者の行動に起因するリスクに対して、KYKは有効な活動です。また、日常的に行っている職場では常日頃から危険要因を見出すことが行われ、危険に対する感受性が高まることから、リスクアセスメントの「危険性又は有害性の特定」がスムーズに行えることにつながるため、両者を一体的に活用することにより一層有効な対策につながります。

危険予知活動が現場で的確に行われるためには、日頃から危険に対する感受性や集中力を高めて問題解決能力を高めるための訓練が必要です。この訓練を危険予知訓練(K:キケン、Y:ヨチ、T:トレーニング)といい、KYTIによって、作業員一人ひとりの「危険を危険として気づく感受性(危険感受性)」を鋭くすることにより、KYKが実効あるものとなります。

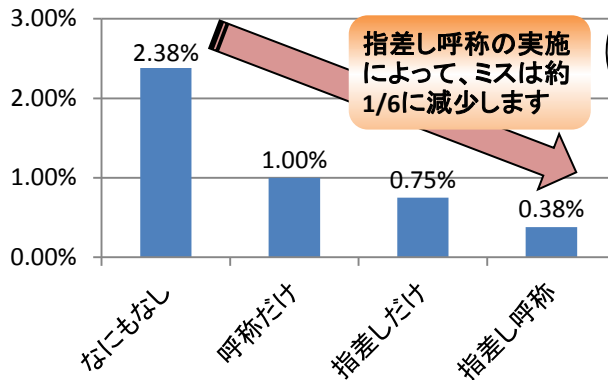
## ○指差し呼称が効果を高める

KYKの一環として行われる指差し呼称は、作業を安全に誤りなく進めるために、作業の要所要所確認すべき対象をしっかりと見つめ、腕を伸ばし、指を差し、「スイッチオン、ヨシ!」「右ヨシ、左ヨシ、前方ヨシ!」等とはっきりとした声で唱えて確認することで、作業者の意識を正常でクリアな状態にギアチェンジし、集中力を高め「うっかり」「ぼんやり」などの事故を防ぐのに非常に有効です。

実際に、指差し呼称を行うことで、操作ボタンの押し間違いの発生率が6分の1にまで減少したとの効果検証結果も明らかになっています(94年鉄道総合研究所)。

### 指差し呼称の効果検定実験結果

[平成6年 (財)鉄道総合技術研究所]



脚立、開き止めセットヨシ!

指差し呼称  
眼・腕・指・口・耳の感覚を総動員して安全を確認する

# 2 「ツール・ボックス・ミーティング(TBM)」について

## ○それってなに？

ツール・ボックス・ミーティング(TBM)とは、職場で行う作業の打合せのことです。「ツール・ボックス=工具箱」の近くで行われるため、このように呼ばれています。

基本的には、朝の作業を開始する前に5~10分程度行われるのが普通ですが、必要に応じて昼食後の作業再開時や作業の切替え時に行われることもあります。職長が中心となって、その日の作業の範囲、段取り、分担などを明らかにし、全員で安全衛生のポイントなどを確認して下さい。ミーティング後には、ワンポイントKYを取り入れ全員で最終確認を行うようにするとより効果的です。



### ツール・ボックス・ミーティングの基本的な手順

#### 第1段階：導入する

テーマを提供し、関心を起こさせ、問題点に注意を向けさせること。

#### 第2段階：意見を引き出す

導入したテーマについて、参加者の意見や考え方を引き出す過程。質問も出させ出来るだけ全員に発言させるようにすること。

#### 第3段階：まとめる

ミーティング全体を振り返り、対策などの結論を引き出す。結論が出なかった問題については、当面どのように取り扱うのかきちんと決めること。

#### ワンポイントKY・リスクアセスメント等

TBMで確認された対策について、ワンポイントKYにより、全員で再確認する。さらに重要な問題については、リスクアセスメントにより検討を深めることも必要。